

平成 26 年度富山県子育て支援・少子化対策県民会議

1 日時 平成 26 年 10 月 9 日（木）10:00～11:30

2 場所 高志会館 麗花

3 議題

(1) 会長の互選、職務代理者の指名について

(2) 「みんなで育てるとやまっ子みらいプラン」の推進状況及び今年度の取組みについて

(3) 新しい基本計画の中間報告案について

4 委員発言要旨

< A 委員 >

・意識の高い企業の女性社員でも、社内に制度は整っていても、産休などいろいろな休暇が取りにくいという。男性が取りにくいのは当たり前だと思う。

・子どもを増やし、なおかつ女性がいきいきと働くためには、イクメン・カジダンという言葉がなくなるくらい、男性と女性が共に育児を楽しんでいくという機運を作っていくことが重要。

・「楽しい、カッコいい、素敵」というキーワードがあるが、育児をする男性がカッコいいと社会全体に思われるように、マスコミやアパレル業界等と連携して一大キャンペーンをしたら面白い展開になるのではなか。

< B 委員 >

・2人目が産まれたお母さんや、3人目が産まれたお父さん方に、なぜ産んだんですかという理由を調査したらどうか。実際結果を出した人に聞くことが、次に進む大きなキーになるのではないか。

・どの政策が出生に関連があるのか、行政側も実感を持ち、そこに集中投下していけばよいのではないか。

< C 委員 >

・2人目、3人目というお子さんが自分の周りでは増えてきている。

・実家の近くに戻って、親に子どものお世話を手伝ってもらおうという家庭が増えている。

< D 委員 >

・子育て家庭の負担軽減のため、朝日町では、保育料の軽減・無料化、医療費の完全無償化に取り組むたいと考えている。

・1人目の出産が本当に苦しいというのは、経済的負担というよりも、どちらかというところを育てる環境でないという方が大きいのではないかと思う。

・とやまマリッジサポートセンターに登録される方や、合コンに行く方がいいが、そういったところに行かない方がかなり多いと若い世代から聞いている。

・お見合いをコーディネートするボランティアのもう一步踏み込んだ、おせっかいおばさんのような方の活用も必要だと思う。

< E 委員 >

- ・小さい頃から、結婚、出産、子育ての楽しみを伝えていくことが大事だと思う。親や地域の大人がいいモデルとなって伝えていくことで、希望をもって出産、子育てに携わっていくのではないのかと思う。
- ・孫（小学1年生）育ての真っ最中であり、放課後児童クラブや放課後子ども教室のお世話になっていることから、ますます充実してほしい。

< F 委員 >

- ・少子化問題について、日本の特徴として、**25～29**歳で出産される方が極端に減り、反対に**35**歳以上で出産される方がかなり増えていることが、諸外国と比べると非常に大きな問題になっている。
- ・富山県でもかなり高齢になってから出産されている方が非常に多く、リスクや負担が大きくなる。
- ・何歳でも産めるんだというような感覚ではなく、安全に出産できる年齢で産んでいただくような形がいいと思う。
- ・若いうちに産んでいただくためには、育児支援を手厚くすることや、早い時期から出産についての教育も必要。
- ・また、男性の育児休業取得率が非常に低いので、これをより高めて、男女ともに働きながら子育てできるような環境づくりも非常に大事。
- ・具体的に目に見えるような形でやらないと、若い人たちは出産とかそういう方向に動いていかないかと思う。例えば、政策誘導として、子どもを産もうとする年齢で、出産支度金の額を変えるなどが考えられる。
- ・こういう取り組みは市町村単位ではなく、富山県全体でやっていただきたい。

< G 委員 >

- ・次世代法に基づく「子育てサポート企業」の証である「くるみんマーク」の取得には、原則行動計画の期間中に、男性の育休取得者が一人以上いることが要件となっている。このことが、くるみんマークを取得する企業が増えない一つの理由となっている。
- ・育児休業を取りたいと思っている男性はかなり多く、企業のトップの方も男性の育児休業取得の促進に非常に前向きな見識を持っているが、直属の上司や同僚の間で、ケースがないが故に取得が難しいという状況が起こっている。

< H 委員 >

- ・日本では、貧困家庭が多くなってきており、その一番弱者が子供である。
- ・生活困窮者に対し、市町村単位で、ワンストップで支援ができるよう、国や県で取り組んでほしい。

< I 委員 >

- ・若い人たちが、放課後児童クラブ等への就職を考えても、学童は14時～18時ごろまでの勤務であり、生活をしていけるような賃金がもらえないと聞く。

・子育てをする方だけでなく、子育てに関わる人たちのことも考えていかなければならないと思う。

< J 委員 >

- ・実際に子育てをしている母親や父親がもっと参加できる会議があればいい。
- ・パートの賃金がほとんど保育料に消えてしまうのでは、何のために働いているのかわからない。保育料の軽減は、第2子、3子となったら切実な問題だと思う。
- ・女性も外で働くことがいいことだと思込まされていることも、少子化の原因ではないかという意見もある。
- ・本当にすべき少子化対策は、育児・介護休業法の周知や、子育てによって幸せになれるといったことの周知だと思う。
- ・一人目を産んでお産が苦しかったり、産前産後がつらい、そして育児が大変で、喜びが見出せないと2人目、3人目が続かない。
- ・育児休業等の取得も数値目標を決めて、県庁職員が取得し、いろんな人たちの見本になる等、具体的な方法がないと、なかなか男性が育児で休みますという機運にはならないと思う。
- ・産科医の不足だと思うが、出産できる場所が少なくなっている。

< 石井知事 >

- ・機運醸成という意味で、特に若い人には子育ては楽しいとか、育児することがカッコいいという価値観を作っていくことも大事。
- ・色々な政策を行っているが、結果としてもものすごく出生率が上がったりすることにはなっていない。
- ・これまでの調査でも、理想の子どもを持たない理由として、3/4 くらいは経済的負担が多いからだと答えているので、しっかりと対応しないといけない。できれば国全体で取り組みたいと思うので、国の施策も引き出し、同時に県も市町村と連携して対応していきたい。
- ・出産の適した年齢について、ライフプラン教育をしっかり中学校くらいから行い、意識が自然と広がるようにしていかないといけない。
- ・近居、同居について、県内でも入善町が補助金を出すような仕組みをつくっている。そういった地方の特性を活かした施策を推進するためにも、国に対し、財政・税制上のメリットが出るような仕組みを作ってほしいと要望している。
- ・一般の方のご意見をできるだけお聞きするため、アンケート調査や、県内4箇所それぞれ子育てをテーマにするタウンミーティングを行っている。